

「命」をテーマに総合学習 自分の命は自分で守る

札内中学校では「命」をテーマに総合学習の授業が行われています。7月19日、「自分の命は自分で守る」をテーマに1年生が総合学習の授業を行いました。



子ども110番の家

教育委員会の職員が、「子ども110番の家」の取り組みについて講演を行いました。

「町内には、子ども110番の家が372カ所設置されており、地域の人たちが、子どもたちを見守っている。不審者を目撃したり、自然災害にあつたら、すぐに子ども110番の家に避難し、落ち着いて、何があつたか伝えてほしい」と講演を行いました。

生徒の中早織さんは、「子ども110番の家の大切さを改めて感じた。地域の人に守られているとわかった」と感想を述べていました。

逃げるための護身術

帯広警察署生活安全課の職員が、不審者から、自分の安全を守る方法について指導を行いました。

「見た目で良い人が悪い人かはわからない、勇気を持ってその場から逃げることが、一番の護身術。一人ひとりが自分の安全を守る工夫をしてほしい」と講演を行い、その後、実際に不審者に捕まった時に逃げる術の実技指導を行いました。

生徒の武田孝平君は「自分の身に何かあった時、護身術を使うことが大事とわかった」と感想を述べていました。



札内中学校 今昔物語



▲校舎正面玄関前で行われた第1回入学式



▲耐震改修工事後の札内中学校

昭和40年代、西幕別地区には白人、途別、古舞の3中学校がありました。札内地区の発展から白人中学校の生徒数が年々増加する反面、途別・古舞の両中学校は、離農等の影響で過疎化が進み、昭和46年、地域住民との話し合いを進め、統合校舎建設が決定しました。

昭和49年秋までに、鉄筋コンクリート造り三階建ての校舎と屋内体育館を完成させる予定でしたが、当時のオイルショックで建設資材が高騰したため屋内体育館の建設が遅れ、昭和50年4月、校舎のみで、現在の札内中学校は開校しました。このため、第1回入学式は校舎正面玄関前で執り行われました。

昭和50年10月15日、屋内体育館が完成しました。この日を記念して、札内中学校の開校記念日は「10月15日」となっています。

学校概要

学校長 式見 貴美穂
教員数 31人
学級数 16学級
(うち支援学級4学級)
生徒数 419人

※概要は平成24年5月1日現在



校章の外側は、「幕別」の頭文字「M」をかたどる。3つのペンは、学習（理想・意思・知性）と3校（白人・途別・古舞）統合のスクラムで希望・友情・信頼の意義を表す。

札内中学校 の沿革

1975年（昭和50年）白人・途別・古舞の3中学校統合し札内中学校が開校

1985年（昭和59年）開校10周年記念式典

1986年（昭和60年）札内東中学校への分離

2004年（平成16年）開校30周年記念式典

2009年（平成21年）耐震化工事を含めた大規模改修工事を完了